誰もが働けるユニバーサル農園の取組み

京丸園株式会社　代表取締役　鈴木　厚志

私たちは、静岡県浜松市で姫ねぎ・姫みつば・姫ちんげんの水耕野菜を、全国40市場に一年を通じて生産出荷している農業生産法人です。

代々家族経営で農業を営んできましたが、8年前に法人化し、現在、水耕部・土耕部・心耕部で構成された62人の組織となりました。従業員さんの年齢は17～80歳、平均年齢43歳、何らかの障害を持っている21人がともに働く農園です。

経営理念は『笑顔創造』

私達は、農業を通じて笑顔を創造し、従業員さんとお客様の心と体の健康を応援する農園を目指しています。夢は、食糧を供給するだけの農業にとどまるのではなく、農業のもつ多くの機能を、現代の暮らしのなかで新たな価値として創造することです。

農業という産業に福祉というキーワードを融合し、誰でも参画できるユニバーサル農園を建設し、健康創造産業という新たな産業を創造していきたいと思っています。ユニバーサル農園が広がれば子どもから高齢者、障害者等も含め、さまざまな方々が農業を通じて働く場面が広がることでしょう。人は、自分の力が誰かの役に立った時、生きがいを感じます。次世代農業は、食べることで健康に、そして、働くことで生きがいを感じ、心身ともに健康になる産業となることでしょう。

障害者との出逢い

18年前、パート募集の面接に、ある親子がやってきました。母親は、息子には障害がありますが働かせてほしいと深く頭を下げて履歴書を差し出します。私は、障害者と聞いただけで、農業で働くのは無理と判断し履歴書を受け取りませんでしたが、母親は、息子ひとりでだめなら私も一緒に働きますからお願いします、と引き下がりません。そう言われても困りますともう一度お断りすると、給料はいりませんから働かせてほしいと母親は涙ぐんで頼むのです。私は、必死に頼み込む母親に申し訳ありませんとしか返事ができませんでしたが、その日は母親が言った「給料はいりませんから働かせてほしい」という言葉が頭のなかから離れませんでした。当時29歳の私は、お金を稼ぐために働くものだと思い込んでいたので、母親の言葉の意味が理解できなかったのです。お金はいらないというなら何のために働くというのでしょう。

福祉施設に勤める方にこの出来事を話すと障害者の実情を教えてくださいました。障害者を雇い入れる企業は少なく、その採用から漏れれば福祉施設に行きます。福祉施設に行けば面倒をみていただくという立場になります。働きの場に身を置くことと福祉施設に身を置くことは違うと説明してくださいました。母親の真意はわかりませんが、"息子にもできることがある、その力は何かの役に立つのではないか、役立たせたい"という願いではなかったかと感じ取れるようになりました。「息子は体力はありません。肥料を担ぐ仕事はありませんか、草取りも少しお時間いただければできるようになりますから」とできることを具体的に話されていた母親の言葉が思い出されます。働くのはお金を稼ぐためとしか思っていなかった自分が恥ずかしくなりました。お金を稼ぐことも大事なことですが、働くことの意味はそれだけではありません。自分は経営者として何のために働くのか答えを出さなくてはいけな

・・・・P・R・O・F・I・L・E・・・・

鈴木　厚志●すずき・あつし
京丸園株式会社　代表取締役

17歳から80歳までの老若男女62人が働く農園、京丸園㈱代表取締役。障害者雇用をきっかけに「農業と福祉のいい関係！」ユニバーサル園芸を実践しNPOを設立。昨年、日本産業カウンセリング学会において「障害者雇用とConstructive Livingを活用したメンタルヘルスの取り組み」発表。